自然博物園ねいの里で確認されたトンボ類の記録

野生鳥獣共生管理員　　中田　達哉
希少動植物保護増殖推進員　垣地　健太

トンボ類は国内で 203 種確認されており、池や小川、水田といった里山の水辺環境を好んで生活している。

稲作の盛んな日本では古来より親しまれている生き物の一つである。

幼虫期は「ヤゴ」と呼ばれ、ほとんどの種が水中で生活し、ヤゴから羽化したばかりの未熟個体は森林や水域近辺の草原で生育し、成熟すると水域に戻り縄張りを張る種類がほとんどである。

そのため、トンボ類の保護増殖には水域だけでなく、森林の環境保全も重要である。

現在富山県では 12 科 88 種のトンボが確認されており、ねいの里園内でも多くの種類のトンボが観察されている。

確認されている種類の中には、富山県のレッドリスト(引用文献:12)に記載されているものもいるが、ねいの里のトンボ相に関して詳しく調べたデータは少なく、確認された種類の目録も作成されていない。

トンボ類は生息環境が多様なので、淡水生態系の環境指標生物として優れており、国内でも多くの研究事例がある(引用文献:15-16)ため、ねいの里のように水辺のビオトープ事業を行っている場所では、これからも重要な環境指標生物となっていくと考えられる。

そこで、著者らは 2011 年から 2012 年にかけて、ねいの里園内で観察されたトンボ類についてまとめることにした。

この文章の書く上で、多くの意見を頂いた二橋弘之氏、標本や写真を寄付していただいた澤田研太氏、野口達也氏を含め協力してくださった多くの方々にこの場を借りてお礼申し上げる。

調査方法

2011 年から 2012 年の間にねいの里園内で、職員が採集したもの、撮影したもの、2012 年 8 月 11 日にねいの里で行われた行事、「トンボの調査・標本作り」で記録されたものを中心に目録を作成し、また、富山市科学博物館収蔵資料「富山県のトンボ」(引用文献 1-11)の記録を元に過去にねいの里園内で確認された種類を抜粋した。

種の記載方法は「ネイチャーガイド日本のトンボ」(引用文献:13)に従った。

結果

結果①:確認されたトンボ類について。

2011 年、2012 年にねいの里で確認されたトンボの発生時期と主な生息地については別紙のとおりである。

過去の記録を含め、ねいの里で確認されているトンボは 11 科 57 種であり、県内で確認されているものの約 6 割強がねいの里で観察されている。

今回は観察記録だけのニホンカワトンボ、アオヤンマ、ウチワヤンマも参考までに記載した。

過去の結果と照らし合わせると、モートンイトトンボ、コシボソヤンマ、マルタンヤンマ、ト

ラフトンボ、が近年確認されており、マイコアカネとエゾイトトンボが確認されていない。

結果②:各ビオトープのトンボ相

各ビオトープの大まかなトンボ相は下記のとおりで、ビオトープの位置は図 1 の通りである。

① 展示館前

ねいの里展示館前は芝生広場になっており、オープンスペースを好むトンボや、未熟なヤンマ科やヤマトンボ科等の大型のトンボ類の摂食行動も見られる。

5 月から 6 月にかけては、ムカシヤンマやシオヤトンボが良く見られ、ギンヤンマやクロスジギンヤンマ、サラサヤンマの未熟個体が、摂食のため上空を旋回する姿が見られる。

7 月から 8 月にかけては、展示館近くのモリアオガエルのプールやメダカとテツギョの池で発生したキイトトンボやモノサシトンボ、シオカラトンボが見られ、オニヤンマやヤブヤンマのオスが縄張りを張る姿も見られることがある。

この時期になると、南から飛来したウスバキトンボの群飛が芝生広場で見られるようになる。

また、日によっては小規模ではあるが、ヤンマの群飛が見られる日もある。

8 月下旬からは、赤とんぼの仲間が見られるようになり、特にリスアカネとマユタテアカネは展示館近辺でよく見られる。

② 森の生態園

暗い場所を好むトンボが見られ、色々なトンボの未熟個体が成熟するまでの間利用している。

5 月から 6 月にかけて、林内の小川や湧水帯でアサヒナカワトンボやムカシヤンマが見られ、ヤマサナエやトラフトンボ、コヤマトンボ等の未熟個体も見られることがある。

7 月にはモノサシトンボやオオアオイトトンボが見られるようになり、林内にあるサンショウウオの託児所近辺ではタカネトンボが見られるようになる。

この頃から 10 月下旬頃まで林道沿いに縄張りを張るオニヤンマの姿がよく見られる。

7 月下旬から 8 月にはミルンヤンマやマユタテアカネ、リスアカネ等の秋に見られるトンボの未熟個体が見られるようになる。

10 月上旬には林内の湧水帯や林縁部で、オオアオイトトンボの産卵が見られる。

③ 水辺の生態園

上部の 5 つの池と下部の庭園からなっており、上部に設置されている 1 号池から 5 号池は池ごとに環境が異なっているため見られるトンボも異なっている。

5 月から 6 月にかけて 1 号池、2 号池、3 号池でクロスジギンヤンマやコサナエ、シオヤトンボ等の春のトンボが見られ、6 月になると、マルタンヤンマやヤブヤンマ等の夏のトンボの羽化殻が見られるようになる。

5 号池ではトラフトンボやクロスジギンヤンマ等が縄張りを張り、時に産卵する姿が見られる。

7 月になると、ギンヤンマやショウジョウトンボ、オオシオカラトンボ等夏のトンボが多く見られるようになり、5 号池ではオオイトトンボやクロイトトンボ等のイトトンボの仲間や、林縁部で縄張り行動を取るオニヤンマの姿が見られるようになる。

黄昏時になると下部の庭園でヤブヤンマ、マルタンヤンマ、ギンヤンマなどの中規模な群飛が

見られる。

8 月に入ると、リスアカネやマユタテアカネが多く見られ、水深の浅い 1 号池や 2 号池ではモノサシトンボの産卵がよく見られる。

9 月からはノシメトンボやナツアカネ、アキアカネなどが見られ、開けた水面のある浅瀬では、産卵する姿も見られることもある。

4 号池や 5 号池では、縄張り行動を取るオオルリボシヤンマやネキトンボ、キトンボの姿が見られるようになる。

10 月になると、林縁部でミルンヤンマが見られるようになり、オオアオイトトンボが集団で 1 号池の上にかかっているエゴノキの枝に産卵する姿が観察されるようになる。

④ ハッチョウトンボの遊園地

全体が湿地帯になっており、モートンイトトンボやハッチョウトンボ等湿地を好んで生活するトンボが見られる。

5 月にアジアイトトンボやシオヤトンボ、ヨツボシトンボの羽化が見られるようになり、木道の上や地面の上に止まるムカシヤンマの姿が目立つようになる。

時々クロスジギンヤンマが縄張りを張る姿も見られる。

6 月にはキイトトンボやモートンイトトンボ、ハッチョウトンボの羽化が始まり、8 月上旬頃まで低い草本が生える浅い水辺でハッチョウトンボが乱舞する姿が見られるようになる。

7 月になると、ショウジョウトンボやオオシオカラトンボが多くなり、上旬には湿地の上で縄張りを張るエゾトンボの姿や未熟なオニヤンマの群飛が見られることがある。

8 月になると、マユタテアカネやヒメアカネの羽化が始まり、草本に止まる未熟個体が見られるようになる。

9 月頃からマユタテアカネやヒメアカネ、アキアカネ等の赤とんぼの仲間がよく観察されるようになり、ルリボシヤンマやミルンヤンマが縄張りを張る姿や、湿地で産卵するアオイトトンボの姿を見かけるようになる。

⑤ 大池

農作業用の溜め池で、少量ではあるがヨシが繁茂しており、夏になると水面の半分がガガブタに覆われる。

5 月になると、トラフトンボやクロスジギンヤンマ等の浮葉植物が繁茂する池を好むトンボが水面上で縄張りを張る姿が見られる。

7 月になると、オオヤマトンボやチョウトンボ、コシアキトンボ等の開放的な池を好むトンボが見られるようになる。

8 月下旬になると、ネキトンボが目立つようになり、ガガブタ等の浮葉植物の付近に集団で産卵する姿が見られる。

ネキトンボの発生がピークを過ぎると、キトンボが池の縁の背の高い草や木で縄張りを張る姿が見られるようになる。

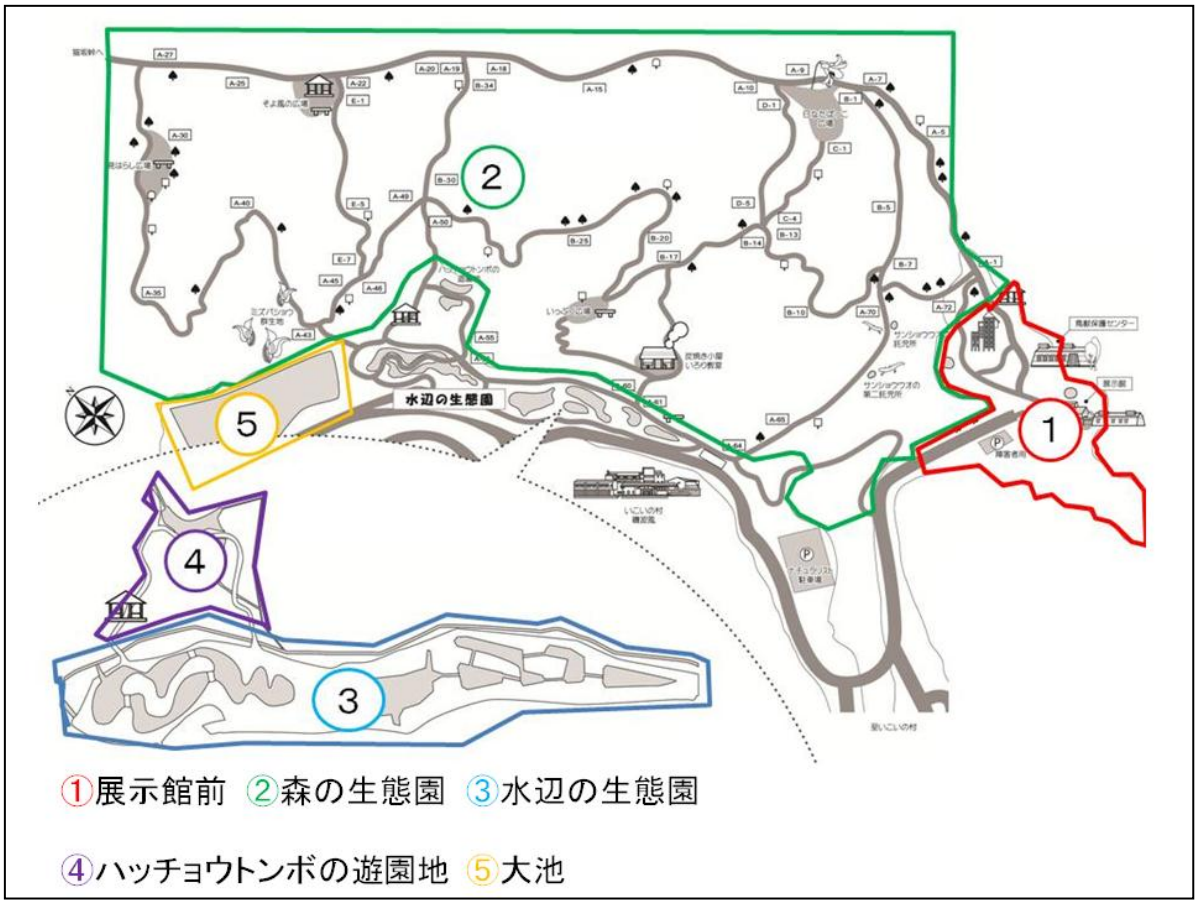

図 1. 各地点の場所

今後の動向について

今回記録した種の中には、観察記録しかない種や、近年記録がない種もあるため、今後継続して調査を行っていく必要があると考えられる。

また、今回記録された種の他にも、来館された方が記録し、公表されていない種もあると考えられるので、データの提供をお願いすることも必要であろう。

引用文献

1:富山県のトンボ　二橋亮・二橋征史・北山拓　1994 富山市科学文化センター研究報告第 17 号

2:富山県のトンボ　二橋亮・二橋弘之・荒木克昌　2004　富山市科学文化センター収蔵資料目録　第 17 号

3:富山県のトンボ(2004 年度記録)　二橋亮・二橋弘之　2005　富山市科学文化センター研究報告第 28 号別刷

4:射水丘陵北東部(小杉町・富山市南西部・婦中町西部)のトンボ相　二橋亮　里山(富山県中央部)の自然環境調査報告別刷

5:富山県のトンボ(2005　年度記録)　二橋亮・二橋弘之　2006　富山市科学文化センター研究報告第 29 号別刷

6:富山県のトンボ(2006　年度記録) 二橋亮・二橋弘之　2007　富山市科学文化センター研究報告

第 30 号別刷
7:富山県のトンボ(2007　年度記録) 二橋亮・二橋弘之・和田茂樹　2008　富山市科学博物館究報告第 31 号別刷
8:富山県のトンボ(2008　年度記録)　二橋亮・二橋弘之　2009　富山市科学博物館研究報告第 31 号別刷
9:富山県のトンボ(2009　年度記録)　二橋亮・二橋弘之　2010　富山市科学博物館研究報告第 32 号別刷
10:富山県のトンボ(2010　年度記録)　二橋亮・二橋弘之・新堀修　2011　富山市科学博物館研究報告第 34 号別刷
11:富山県のトンボ(2011　年度記録) 二橋亮・二橋弘之・新堀修・川村日出男　2012　富山市科学博物館研究報告第 36 号別刷
12:レッドデータブックとやま　2012　富山県生活文化部自然保護課　2012
13:ネイチャーガイド日本のトンボ　2012　尾園暁・川島逸郎・二橋亮　2012　文一総合出版
14:富山県におけるアカトンボ激減の実態　二橋亮　2012　昆虫と自然.47(8):10－15
15:トンボの生息環境からみた水辺の空間の環境復元について一本牧市民公園(横浜市)を事例として　長田光世・田畑貞寿　1992 千葉大園学報　第 46 号 35-46
16:トンボの成虫群集による湖沼の自然環境の評価-釧路湿原達古武沼を例に-　生方秀紀・倉内洋平　2007　陸水学雑誌 68 131-144